

ESD・国際化ふじのくにコンソーシアム プロジェクト1(P1) 3年次(第3回)シンポジウム  
ESD実践の基盤となる公立学校の組織・カリキュラムのモデル開発  
**複雑系の実践⇔制度のアプローチの枠組み**  
**～令和の教育にビルドインする～**

2023年2月26日(日) 27日(月)  
2日間 ZOOMオンラインのみ

(13:00入室 13:30開始～16:30)

共同開催 : 静岡大学(主幹大学)  
川根本町教育委員会  
南砺市教育委員会



© ESDふじくん



ESD・国際化ふじのくにコンソーシアムプロジェクト1  
第3回(3年次)シンポジウム

2自治体  
(川根本町・南砺市)  
の事例を通して

**複雑系の実践⇔  
制度のアプローチの枠組み**  
～令和の教育にビルドインする～

参加費 無料

2023年  
2月26日(日)/27日(月)  
Zoom開催

実行開始 13:10- 閉会 13:30- 終了 16:30

主催：静岡大学 川根本町教育委員会 南砺市教育委員会  
お問い合わせ：umezawa.osamu@shizuoka.ac.jp (054) 243-1101

第1部 プロジェクトの概要と今回のシンポジウムの趣旨  
第2部 南砺市(26日)・川根本町(27日)の教育改革  
第3部 赤星匡太郎「複雑系アプローチの学校改善の実践研究」(26日)  
橋澤敏「複雑系の実践⇔制度のアプローチの教育改革」(27日)

お申し込みはこちら

## 第2日目のスケジュール(2月27日<(月)>)第1部~第3部 13:30~16:30

13:00	開演前Zoom準備 13:15から入場可能
13:30	シンポジウム開演 <b>司会(梅澤)</b> ・開会宣言 ・スケジュール・登壇者(本スライド) ・注意事項・お願い等
~13:44	プロジェクトの概要とシンポの企画趣旨 梅澤 収(Umezawa Osamu: 静岡大学特任教授/P1プロジェクト・リーダー)
13:44~  ~15:00 10分休憩 15:10~	II 川根本町(静岡県)の教育改革~3年間の成果と課題 <b>司会(森 透)</b> 山下 斉(Yamashita Hitoshi 教育長) 松本 治樹(Matsumoto Haruki 教育委員会管理主事) 指定討論 佐々木 織恵(Sasaki Oriie 開智国際大学准教授) 意見交換 10分間休憩
~16:25 16:25	III 複雑系の実践⇔制度のアプローチの教育改革 <b>司会交代(小岱和代)</b> 梅澤 収(静岡大学特任教授) 指定討論 千葉 直紀(Chiba Naoki インパクトマネジメント代表) 意見交換
	おわりに 事務から依頼と感想の記入



2月26日(日) 及び2月27日(月) 共用  
第1部 出会いのセレモニー

- ・プロジェクトの概要と  
シンポジウムの企画趣旨



梅澤 収 P1リーダー

【プロジェクト名:SDGs P1】  
ESD実践の基盤となる  
公立学校の組織・カリキュラムのモデル開発  
第3回(3年次:最終年度) SDGs P1シンポジウム  
2023.2.26(日)と2.27(月) 2日間

【テーマ】 複雑系の実践⇔制度のアプローチの枠組み  
～令和の教育にビルドインする～

3年間のプロジェクトの活動の報告を行うとともに、この研究成果をどのように令和の教育(改革)にビルドインするかを考えます。

- ① 本プロジェクトの中で2自治体が3年間取組んだ活動報告
- ② 教職大学院院生(現職教員)の学校改善の実践研究の報告
- ③ プロジェクトの理論的枠組みのさらなる検討結果の報告  
を行い、意見交換します。

## 【プロジェクト名:SDGs P1】

ESD実践の基盤となる公立学校の組織・カリキュラムのモデル開発

第2回 SDGs P1シンポジウム 2022.1.25(火) オンラインのみ

### 義務教育学校をホリスティックに構想する ～3自治体の事例を通して～

#### 【趣旨】

3つの自治体のホリスティックな義務教育学校の構想を検討する

第1部 出会いのセレモニー ・あいさつ 村山功 副学部長

・事業全体構想と2年次事業の説明

第2部 3つの自治体の学校改革報告

・川根本町 ・南砺市 ・大熊町の事例報告

第3部 モデル開発の枠組みを深掘する

～Whole-Institution Approachによるモデル開発の考え方～

第4部 意見交換 ・指定討論者 ・質疑応答

おわりに 事務から依頼と感想 終了

# 【プロジェクト名:SDGs P1】

## ESD実践の基盤となる公立学校の組織・カリキュラムのモデル開発

### 第1回 SDGs P1シンポジウム 2021.2.4(木) オンラインのみ

#### ホリスティックな学校組織・カリキュラム改革を考える

～過疎化の進む川根本町と南砺市の地域・学校改革を通して～

【趣旨】 本プロジェクトは、「大学が自治体の教育改革を支援しながら、大学自体も変革していく枠組み」を目指し、「自治体の教育政策においてロジックモデルをどう活用するか」という視点で、若手教育研究者と学校現場で取り組んでいる。本シンポジウムは、プロジェクト概要と現況報告のあと、連携・協働している2つの自治体の教育改革の現状と課題、ほりぷの活動報告をしていただき、自由な意見交換を企画しています。

#### 1 前半の部 川根本町と南砺市の地域・学校改革の事例研究

- ・2つの自治体の学校改革概要
- ・ESDほりぷABCの構想とこれまでの論点

#### 2. 後半の部 ホリスティックな公立学校をどうモデル化するか

【自由な意見交換】

- ・指定討論者とフロアからのコメント・要望
- ・質疑応答 ・大熊町報告 おわりに

【2月26日・27日シンポジウム】

## SDGs P1の構想の前史1

国立教員養成学部・大学院の改革実践  
とESD/SDGsから出発（経緯1）





## 表1 高等教育の歴史と国立大学(法人)静岡大学

2023年2月26日現在 梅澤作成

- ・1949年6月 新制国立大学発足 新制静岡大学(文理学部・教育学部・工学部)
- ・1964年 教育学部課程制へ(小・中・養護)
- ・1965年 人文学部と理学部に(文理学部改組) 教養部設置
- ・1976年 教育学部に幼稚園教員養成課程定員510名
- ・1981年 教育学部に修士課程設置
- ・1989年 教育学部に総合教育課程設置(定員120名)
- ・1990年教育実践指導センター設置 →1998年教育実践総合センターへ
- ・1995年 情報学部の設置 教育学部80名減 教養部廃止
- ・1998年 教育学部改組(400名) 養成260名 教育実践学専修 新3課程140名
- ・2001年11月「[国立の教員養成系大学・学部の在り方に関する懇談会\(在り方懇\)](#)」報告
- ・2004年4月 国立大学法人化 第1期04-09 第2期10-15 第3期16-21 第4期22-27
- ・2006年 教育基本法改定
- ・2009年 教育学部養成300名、新3課程100名 教職大学院設置併設



- ・2012年 愛知教育大学と共同博士課程設置
  - ・2013年11月 国立大学のミッションの再定義(教員養成分野)
  - \* 教職支援室('13) 学習科学研究教育センター('13)、教員養成・研修高度化推進センター('14)  
静岡大学教職センター(全学組織、'15)、教科学研究開発センター('16)を設置。
  - ・2016年 初等学習開発学・養護教育設置、新課程発展的整理(定員100減)  
地域創造学環(50名)創設
  - ・2018年11月「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」12月内閣府「SDGsアクションプラン2019」12月 文科省「未来検討タスクフォース報告」2019年2月 高等教育・研究改革イニシアティブ(柴山イニシアティブ)
  - ・2019年1月 国立大学1法人複数大学制度(報告)→5月法案成立 6月「国立大学改革方針」
  - ・2020年 新教職大学院 静岡大学未来社会デザイン機構・サステナビリティセンター
  - ・2021年1月 令和の日本型学校教育」の構築を目指して(中教審答申)・2021年2月「同教師の人材確保・質向上プラン」公表 ・2021年3月「同教師の養成・採用・研修等の在り方」(諮問)→11月審議まとめ(更新制)→2022年12月答申(改革工程表)
  - 2021年11月 教員養成フラグシップ大学(14件申請) 翌3月 学芸大・福井大・大教大・兵教大選定
  - ・2022年 教員免許更新制・更新講習廃止(7/1) 奈良教育大学ESD・SDGsセンター設置
  - ・2023年4月 静岡大学グローバル共創科学部 教育学部定員260名(40名減)予定
- 【今後の課題】 ESD/SDGsの視点でWole-institution Approachによる「再方向づけ(re-orientation)」に取り組むこと/政策・機関包括・教育者・若者・コミュニティの総合的枠組み構築による「大学の質的改革」を行うこと→学部の組織/カリキュラム・授業本体の改革へ

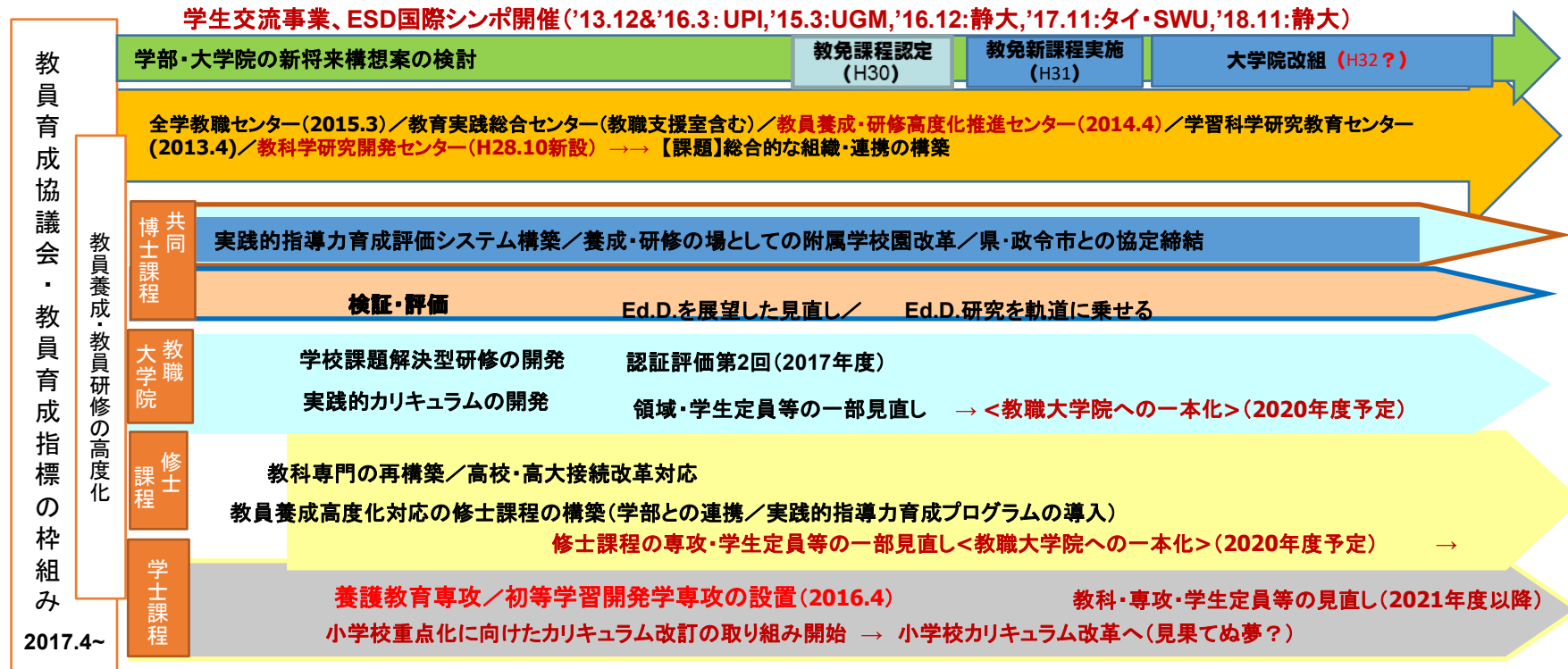
## 静岡大学のミッションの再定義(教員養成分野)

対象となる組織: 教育学部/教育学研究科 (教職大学院 2009年度設置/共同大学院博士課程2012年度設置)

静岡大学教育学部・教育学研究科は、地域密接型の大学・大学院として静岡県内の教員養成・教員研修の質の向上を主たるミッションとする。同時に、後期博士課程までをフル装備する大学として、国内及びアジアの教員養成系大学の拠点として教職研究をもう一つのミッションとする。具体的には、'Act Locally, Nationally, & Globally (and Change Shizuoka University)' の視点で以下の3目標を追求する。

- 1) 静岡県内の教育関連諸機関や附属学校園との連携を通じて、a) 教員養成の改革を行って卒業生・修了生の質を高め、b) 現職教員が学び続けるための環境を提供して現職教員の資質を向上する【Locally】
- 2) 国内の教職大学院/教員養成系博士課程と連携し、教員養成の質を高めるとともに、これからの教員養成課程を中心的に担う人材育成(大学教員の養成)を行う【Nationally】
- 3) アジア等各国の教員養成大学との連携を通じて、これからの教員養成を支える教職研究を行う【Globally】

2011年度 … 2015年度 2016年度 2017年度 2018年度 2019年度 2020年度 2021年度 2022年度 2023年度



【2月26日・27日シンポジウム】

## SDGs P1の構想の前史2

ESD・国際化ふじのくにコンソーシアム  
事業の成果と課題からの発想・企画  
(経緯2)



## ユネスコスクール(16)&サステナブルスクール(1)

- 静岡県: 加盟校16(2019年1月現在)
- ・静岡市立こども園(5園): 東豊田こども園 由比こども園 清沢こども園 久能こども園 和田島こども園
  - ・富士市立岩松北小学校
  - ・静岡市立玉川中学校・掛川市立北中学校・伊豆市立天城中学校 富士宮市立富士宮第二中
  - ・静岡県立伊豆総合高校・静岡県立駿河総合高校
  - ・静岡県立下田高等学校南伊豆分校(サステナブルスクール)
  - ・静岡大学附属島田中学校・学校法人星美学園静岡サレジオ小学校
  - ・星陵中学校・高等学校・不二聖心女子学院

- ・地域創生
- ・地域学校協働
- ・チーム学校

- ・ユネスコスクール活動交流
- ・ESD・国際化の講座・研修の実施
- ・地域学校協働や学社連携
- ・サステナブル・サイエンスの連携・協働

## 参加又は協力いただける教育委員会

参考: 県内全市町35(黒字:コ参加 赤字要請予定)

- ・静岡県 静岡市(政令市) 浜松市(政令市)
- ・富士市 沼津市 御殿場市 富士宮市 裾野市
- ・清水町 長泉町 小山町 函南町 三島市
- ・伊東市 熱海市 下田市 伊豆の国市 伊豆市
- ・東伊豆町 河津町 南伊豆町 松崎町 西伊豆町
- ・島田市 焼津市 藤枝市 牧之原市 吉田町
- ・菊川市 御前崎市 川根本町
- ・磐田市 掛川市 袋井市 森町 湖西市

# ESD・国際化 ふじのくにコンソーシアム

平成30年度版



## 連携・協働



## コンソーシアム事業の3年間の活動の概要<2019年1月総括会議より>

ESD・国際化ふじのくにコンソーシアム事業は、静岡大学教育学部・大学院の改革構想(27頁)に基づき、平成28年度-平成30年度ユネスコ活動費補助金を得て、上記の組織体制で、3年間活動に取り組んできた。この取り組みを通じて、ESD・国際化の活動に取り組む県内の多様なステーク・ホルダーが、実践活動・取組や課題を共有しつつ、新たな知見を得ることによって、地域学校協働で持続可能なネットワークと信頼関係を構築する基盤を形成することができた。また、ESD・国際化の観点から静岡県内の地域創生及び地域学校協働のための具体的な活動イメージが持てるようになった。

そこで、来年(2019年)度以降も、教員養成・研修統合型のシステム構築の観点で県下のESD (for SDGs)と国際化を継続して推進していきたいと考える。

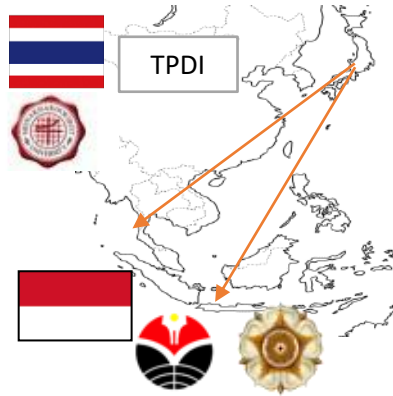
その枠組みは、「ESD × PLC の教育実践研究～Diversityな社会に開かれた学校・教師の改革のための枠組み構築～」と整理している(図参照)。

今年度申請書(2018年度)では、‘平成31年度以降のコンソーシアム事業は、「教員養成・研修高度化推進センター」が「ESD-SDGsコンソーシアム部門」を組織し、初等教育開発学専攻の協力で担っていく方向で検討している。これらは、ステーク・ホルダー(SH)会議で検討し承認を得る。’としている。

この方向で来年度以降も事業継続を行う予定であるが、そのためには来年度以降も外部資金の獲得が重要と考えており、来年度募集プログラムに応募する予定。しかしながら、公募申請が採択されなかった場合でも事業継続ができるように、静岡大学の全学予算への申請も行いたいと考えている。具体的な活動計画は検討していく。



## ASEAN諸国



### カウンターパート機関

【インドネシア】

インドネシア教育大学(UPI)

ガジャマダ大学(UGM)

【タイ】

シーナカリンウィロート大学

(SWU)

教育省・教員職能開発研修所

(TPDI:Teacher Professional

Development Institute)

協力:UNESCO・バンコク

ESD for SDGs  
教育実践研究  
海外拠点

【EDU-Port Japan 2018~2019 /企画書】

中部圏-ASEANコンソーシアム

ESD for SDGsの教育実践研究のための  
国際化拠点形成事業



(主幹大学・静岡大学)



### 【目標】

- ・ 中部圏-ASEAN主要国のコンソーシアム形成
- ・ 21世紀型能力を育成するESD for SDGsの教育実践研究の金型づくり
- ・ 次世代の教員養成と現職教員の育成支援
- ・ ESD for SDGsのカリキュラム及び実践授業開発及び海外展開と検証
- ・ 教職志望者・現職教員・(研究/行政)専門家三者の実践研究交流ネットワークの構築

### 【展開事業】

- ① 教育実践研究の拠点設立
- ② 教員養成国際会議開催・モデル開発と普及
- ③ 教育機関間の国際交流のためのネットワーク構築

### 【平成30年度計画】事業組織立上げ

- ・ ユネスコスクールの視察と意見交換
- ・ 静岡で教員養成国際会議開催
- ・ パイロット事業のステークホルダー(SH)国際会議

### 【平成31年度計画】モデルの海外展開

- ・ タイで国際会議、ユネスコスクール視察、SH会議
- ・ 国際アンケート調査・分析・公表
- ・ 教育実践研究の国際交流ネットワーク構築
- ・ 事業成果報告会を日本で2020年2月に開催

## 中部圏

ESD・国際化ふじのくに  
コンソーシアム  
(主幹大学:静岡大学)



ESDコンソーシアム愛知

(主幹大学:中部大学)

### 実践フィールド

富士市教育委員会

富士市教育研修センター

富士市立岩松北小学校

静岡市教育委員会

静岡市立玉川中学校

川根本町教育委員会

下田市教育委員会

協力:ACCU

北陸ESD推進コンソーシアム

ESD for SDGs  
教育実践研究  
国内拠点

# ESD・国際化ふじのくにコンソーシアム事業 2016年度から2022年度の7年間

1. ESD・国際化ふじのくにコンソーシアム事業 2016年度～2018年度  
グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業(ユネスコ活動費補助金)の採択  
→このコンソーシアムを基盤として2つのプロジェクトを実施 \*いずれも静岡大学主幹

2. ESDを基軸とした質の高い幼児教育の推進と学校種間の接続  
～コンソーシアム事業を基盤とした新たなる展開～(カテゴリー2:P2)  
2019年度～2021年度SDGs達成の担い手育成(ESD)推進事業(同上)の採択

3. ESD実践の基盤となる公立学校の組織・カリキュラムの  
モデル開発 (カテゴリー1:P1) 2020年度～2021年度  
SDGs達成の担い手育成(ESD)推進事業(ユネスコ  
2022年度は大学独自経費で実施  
→2023年2月26日(日)、2月27日(月)2日間のシンポジ  
チラシを参照のこと



©ESDふじくん



【2月26日・27日シンポジウム】

SDGs P1の構想(本事業)

ユネスコ活動費補助金

SDGs達成の担い手育成(ESD)推進事業

ESD実践の基盤となる公立学校の組織・カリキュラムのモデル開発

2020年度～2022年度\*

(\*2022年度大学独自資金で実施)



# I 本プロジェクトの目的とコンセプト

## (1)目的

「ESD実践の基盤となる公立学校の組織・カリキュラムのモデル開発」  
を行い、その成果を全国に発信すること

## (2) 目的実現の基本となるコンセプト

大学・コンソーシアムが、次の2つの活動を相互に関連付ける。

- ①2つの自治体の教育改革実践へ支援を行う
- ②公立小中学校の組織・カリキュラムのモデル開発を行う

## \* プロジェクト1の背景と経緯(その1)

### ①「ESD・国際化ふじのくにコンソーシアム」(2016年度～現在)

静岡大学教育学部が、静岡県に於けるESD(Education for Sustainable Development=持続可能な開発のための教育)実践の進展を目指して、高等教育機関・学校・社会教育施設・自治体行政・企業・地域組織・市民団体組織などとネットワークを構築して活動を展開してきた。「グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業」(文部科学省補助事業平成28年度ユネスコ活動費補助金)の一つとして採択され実施している。このコンソーシアムでは、「育成」、「知的支援・助言」、「発掘・発信」、「つなげる」の4つの役割を柱としている。

②コンソーシアムを母体として、本プロジェクト1と併行して、「ESDを基軸とした質の高い幼児教育の推進と学校種間の接続」(プロジェクト2)が、2019年度から継続している。いずれも、2019年度から開始されたユネスコ活動費補助金「SDGs達成の担い手育成(ESD)推進事業」に採択されたものである。

# SDGsP1 (2020年度 初年度)の活動

- ・3年間/初年度の計画と組織体制

- ・1年次の活動計画とその実施

- ① 2つの自治体の教育改革の支援 研究協議会

- ② ESDほりぷ(若手研究者の集団)の結集と計画化

\*注)“ESD HoRIP”とは

ESD関連の内在的な教師実践をホリスティックな公立学校改革に結びつける枠組み研究会

‘A framework study group that links public schools to **H**olistic **R**eform through the **I**ntrinsic teacher **P**ractice of **E**SD’ の略称

- ③ ロジック・モデル研究

ESDほりぷとIML(インパクト・マネジメント・ラボ)と共同研究

- ④ シンポジウム(2021.2.4)で成果報告 →報告集

### ESD実践の基盤となる公立学校の組織・カリキュラムのモデル開発(P1)の構想全体図

ESD・国際化ふじのくにコンソーシアムは2016年度からユネスコ活動費補助金を獲得し活動を展開しているが、本新規事業は、このコンソーシアムのネットワークを活かし、「ESD実践の基盤となる公立学校の組織・カリキュラムのモデル開発」(P1)を目的とする。事例自治体はSDGs未来都市・南砺市(富山県)及び川根本町(静岡県)で、前者は学年区分・チーム学級担任制・多学級合同指導・特認校など学校組織・カリ改革を、後者は幼小中高一貫の教育改革と持続可能なコミュニティ活性化を、義務教育学校で大胆に進めている。これらホリスティックな自治体教育改革は、公立学校のESD実践の推進にとって重要な基盤となるものである。

本事業は、「教師が内発的・創造的に実践・活動を行い、その成果を学校改革とシステム転換に繋げる」という理論的枠組みのもとで、2自治体の学校改革を支援し、調査・検証を行い、その成果を全国に発信することをめざしている。このねらいに取組むために、(1)両自治体の教育改革実践への参加・支援と、(2)公立小中学校の組織・カリキュラムのモデル開発の2つの主な活動を展開し、2月のシンポジウムで理論的枠組と活動成果を発表・議論する。

3年間のコンソーシアム事業の成果として「自治体と大学の連携・協働の”金型づくり”」の役割を提示してきたが、今回の新規事業は、そのコンセプトを具体的組織・活動として計画化・実施し、本事業の「金型づくり」の有効性を検証する。また、その成果を「公立教育改革」や「教師教育改革」につなげていく。



# SDGsP1 (2021年度 2年度)の活動

- ① 2自治体の教育改革の支援 研究協議会の開催
- ② ESDほりぷとIML(インパクト・マネジメント・ラボ)と共同研究  
→ コロナのために活動が大きく制限される
- ③ 7月 日本教育政策学会との共同シンポジウム  
「EBPM時代における教育実践と制度改革の枠組みの構築  
～公立学校の変革支援の枠組みをどう創るか～」
- ④ 「モデル開発」の理論と実践の研究・学習会  
〈1〉公立学校改革への大学支援(MSカフェ: Model for Support)  
〈2〉大学教育・教師教育の改革枠組み  
(UTカフェ: University & Teacher education)
- ⑤ 若者・学生がESD/SDGsを企画実施するプロジェクト
- ⑥ シンポジウム(2022.1.25)で成果報告 →報告集

図1 2021年度(2年次)

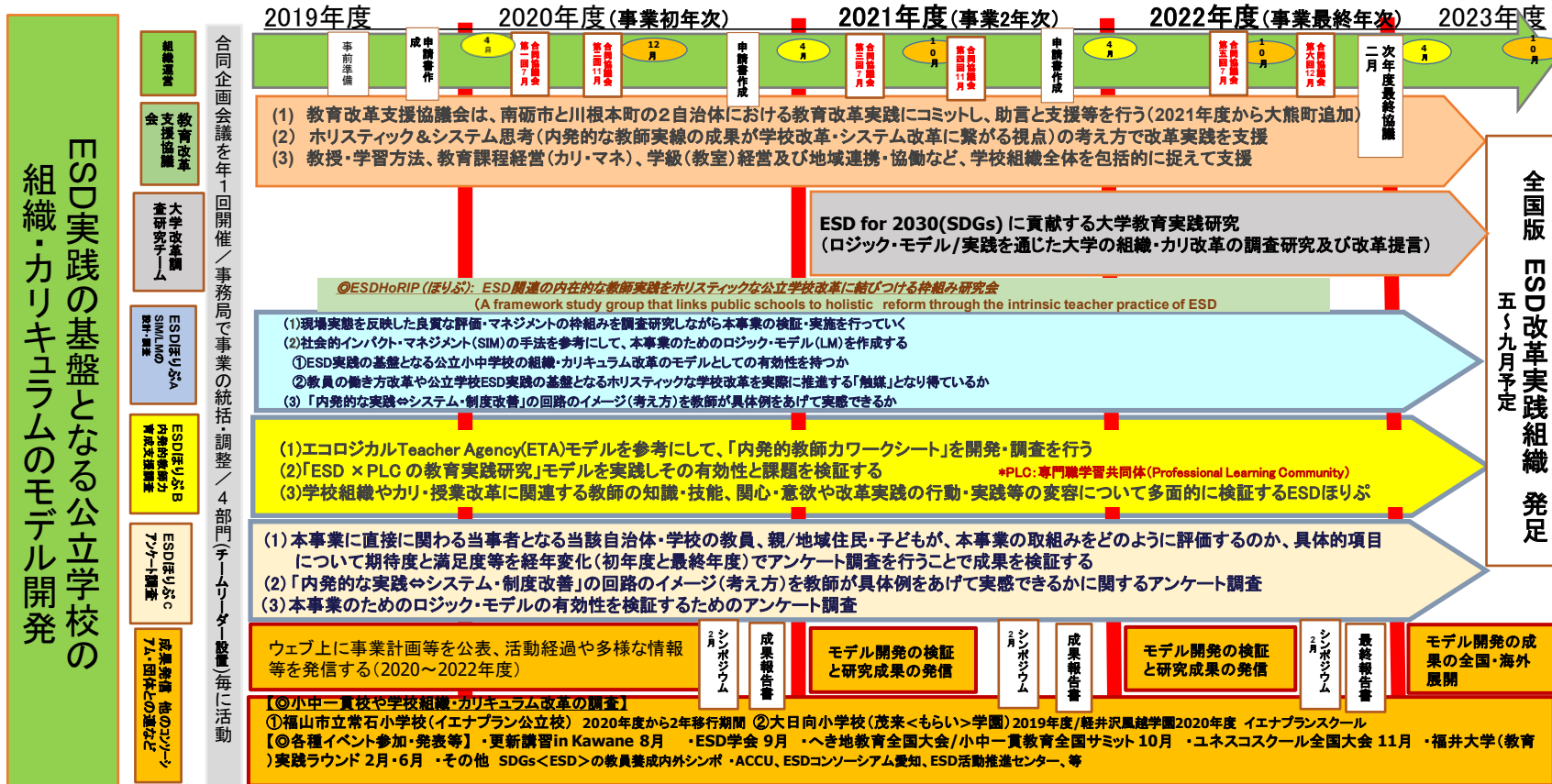
ユネスコ活動費補助金「SDGs達成の担い手育成(ESD)推進事業」(2020-2022予定)

ESD実践の基盤となる公立学校の組織・カリキュラムのモデル開発(P1)の構想全体図

本事業(3年間)は、ESD・国際化ふじのくにコンソーシアムの成果をふまえ、SDGs未来都市・南砺市(富山県)及び川根本町(静岡県)の2つの自治体の教育改革を支援し、ESD実践の基盤となる公立学校の組織・カリキュラムのホリスティックな改革をもたらす枠組みを構築し、モデルとして全国発信することである。

事業1年次は、「教師が内発的・創造的に実践・活動を行い、その成果を学校改革とシステム転換に繋げる」という事業初発の理論的枠組みを、システム思考と「拡張的活動とknot・working」(エンゲストローム)を参考にし、探究し、またホリスティックな自治体の教育改革を支援するためのロジック・モデルの作成に取組み、その可能性と課題を明確にした。

2年次の事業計画は、理論的探究とロジック・モデルの作成を柱としたアクションリサーチの手法で、帰還困難地・大熊町を加えた3つの自治体の教育改革支援を行い、その成果を12月のシンポジウムで発信する。また2年次からは、公立学校改革に対する大学による支援(連携・協働)の在り方・役割とともに、アクションリサーチの手法とロジック・モデルの作成によって大学教育・教師教育に関する実践的調査研究を複数の国立大学の参加を得て実施し、ESD for 2030(SDGs)に貢献する大学に変容するための枠組みを構築する。





# SDGsP1 (2022年度 3年度)の活動

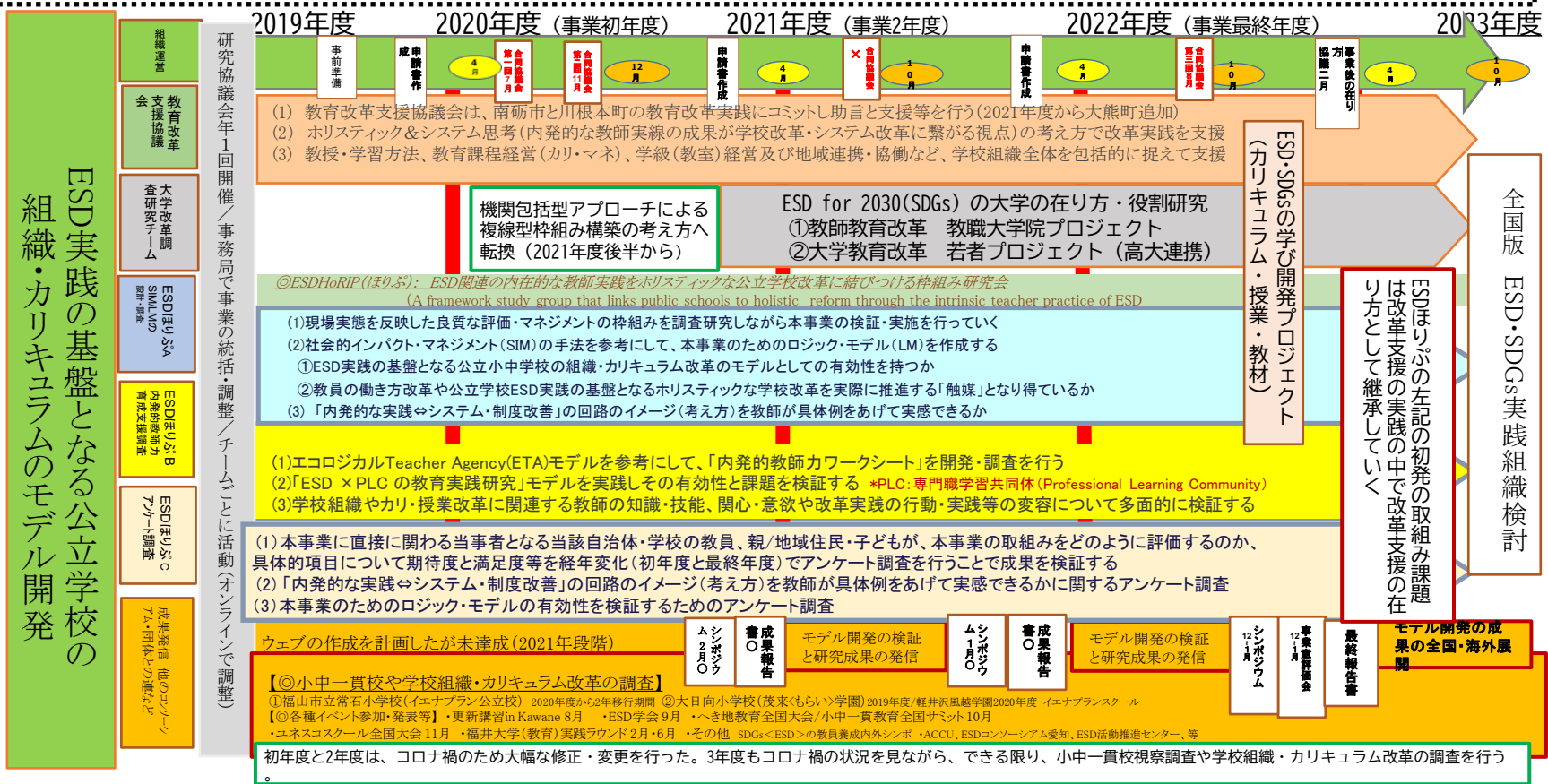
- ① 2自治体の教育改革の支援 研究協議会
- ② ESDほりぷとIML(インパクト・マネジメント・ラボ)と共同研究  
→コロナ・経費面の制約
- ③ 全国の教職大学院の改革の調査  
5大学(佐賀第・秋田大・福島大・群馬大・千葉大)
- ④ 若者・学生によるESD/SDGsプロジェクト(継続)  
公立中学校に「SDGsと防災・減災」の授業
- ⑤ 発展的評価(Developmental Evaluation)の学習会  
2023年2月6日(千葉直紀さんの講師)
- ⑥ シンポジウム(2023年2月26日、27日)で成果報告  
→報告集
- ⑦ 全国ESDコンソーシアム/ステークホルダー交流会  
(2023.2.17~2.18)



ESD実践の基盤となる公立学校の組織・カリキュラムのモデル開発（2020～2022）

本事業(3年間)は、ESD・国際化ふじのくにコンソーシアムの成果をふまえ、SDGs未来都市・南砺市(富山県)及び川根本町(静岡県)の2つの自治体の教育改革を支援し、ESD実践の基盤となる公立学校の組織・カリキュラムのホリスティックな改革をもたらす枠組みを構築し、モデルとして全国発信することである。

初年度は、「教師が内発的・創造的に実践・活動を行い、その成果を学校改革とシステム転換に繋げる」の理論的枠組みを、システム思考と「拡張的活動とknot-working」(エンゲストローム)を参考に探究した。また、若手研究者組織・ほりぶとIMLの協力のもと、ホリスティックな自治体教育改革のロジック・モデル(LM)の作成に取組んだ。2年度は、自治体改革支援を継続するとともに、学会共催シンポジウムでEBPM時代のLMのあり方の議論をふまえて、モデル開発の考え方を探究した。さらに2年度は、ESD for 2030(SDGs)に貢献する大学に変容する枠組み構築のために、①自治体教育改革支援(連携・協働)の在り方・役割とともに②大学改革(大学教育・教師教育)の在り方・役割を整理する取組みを行った。単線(リニア)型でなく複線型(complex system)発想で数値化を扱うことを確認した。事業計画の最終3年度は、機関包括型アプローチでこれまでの取組みを進展させるとともに、ESD・SDGsの学び開発と、事業枠組を参考に取組みを行う機関・団体の「フィールド開拓づくり(knot-working)」を行いながら、3年間のプロジェクトの検証段階とし、プロジェクトの総括及び「モデル開発」の知見をまとめ、その成果と課題を全国に発信する。



# SDGsP1 (2020年度～2022年度)の成果と課題

【成果】①「ESD実践の基盤となる公立学校の組織・カリキュラムのモデル開発」の基本的考え方を整理できた。

- ・ 複雑系の実践⇔制度のアプローチの枠組み
- ・ 機関包括型アプローチと持続可能性への移行図
- ・ 学校教育改革と教師教育改革、そして大学教育改革に共通する理論的枠組みを構築
- ・ 現職の教職大学院生のアクションリサーチ研究

② 大学が自治体の教育改革支援を行いつつ、大学の役割・在り方(連携・協働)を考えるプラットフォームとなった。→アイデアの源泉・基盤に

【課題】・ ESD/国際化ふじのくにコンソーシアムの今後の方向性

・ ESD実践の基盤づくりの実践・理論の研究の成果を、令和の教育改革に具体的にどうビルドインするか？

→新しい教職大学院の実践研究/ 新しい教育実習の枠組み

・ 政策⇔制度⇔実践の考え方で、教師の内発的な教育改革の実践力を支援する(エンパワーメントする)取組みをどう進めていくか？

→生徒指導・学級経営/学年経営・カリ/授業実践のワンストップ・開発型で取組む！